

平成 18年 11月 4日
板橋フォーラム実行委員会
2007年問題対策検討会議

2007年問題対策について － 検討結果と具体策の提言 －

1 状況の把握および分析

(1) 数字面

① 基礎データ

A 昭和 22～24 年生まれの男性 13,880 人

B 失業率 3.7% (板橋区の統計平成 17 年版 77 頁より)

C 就業者における雇用者数割合 75.9% (板橋区の統計平成17年版74頁より)

※全て板橋区の男性の統計

② 対象者の算定

$$(A - (A \times B)) \times C = \underline{10,143 \text{ 人}}$$

※団塊世代の女性については、ヒアリング等の結果、当事者としての対応（対策）は不必要と分析したため、対象としては考慮外とした。

(2) 意識面

① 仕事への意欲

経済的余裕がない場合を例外とし、比較的余裕があればフルタイムで働きたいと考えている人の割合は少なく、長年にわたる勤めの反動もあり退職後の労働意欲は薄い。
(当事者へのサンプルヒアリング結果による)

② 退職後にしたいこと

趣味やスポーツ、ボランティアやNPO活動などの社会活動へ意欲が高い
(本年9月20日に板橋区が主催した団塊の世代に関するセミナーにおけるアンケート結果〔団塊世代のみ〕による)

(3) 社会的要因（現象）面

改正高年齢者雇用安定法の施行による退職年度の分散化が現実的になりつつあるが、実際数字としてどこまで分散化するのは不明。また前述のとおり労働意欲は薄いことから、再雇用・再任用等への希望も未知数。

分散化しても人口構成上、団塊世代は文字通り団塊であることから、遅くとも 2012 年には同様の問題が発生する。

2 具体策について（提案）

- (1) 事前対策のための連続講座の開催
別紙「団塊世代向け退職後のための準備セミナー」参照
- (2) ハンドブック（ガイドブック）の作成・頒布
定年退職後の地域での居場所を紹介・リストアップした冊子の作成・頒布
※参考として年金や税金、就労面での相談窓口等も記載
- (3) 地域活動インターンシッププログラム
地域回帰のための体験プログラム事業（千葉県我孫子市にて実施）
- (4) 区政ならびに各種会議体への参加の促進
日中の会議体でも出席可能である事から、（地元自治体への関心を高め）行政経営の充実と刷新に、企業等で培った多様なノウハウ・アイデアを生かしてもらうための政策誘導
- (5) 退職者向けの総合的な相談・情報機関（ワンストップ型）の開設
・市民活動情報センター（東京都多摩市にて設立）
・同機関にて地域活動等の情報の一元化を行い、同時に人材登録制度とコーディネーター機能も担う
※将来的には当事者（団塊世代等）の自主運営も視野に
- (6) 公共のために働く場所の創出
利益追求でなく、地域・公共の役に立ち、かつ働く場所の創出として、公共施設の管理運営等への積極的な人材活用
（志木市にて実施“行政パートナー制度”）
- (7) 公的機関・事業の名称変更
団塊世代にとってはまだ“シルバー”あるいは“シニア”といった名称に対する抵抗感があるため、公的機関あるいは事業が使用しているシルバーあるいはシニアといった名称（例：板橋区シルバー人材センター、はつらつシニアいたばし、いたばしシニアネット etc）を柔軟に転換・変更する

以 上

団塊世代向け退職後のための準備セミナー (「講習会開催」企画案)

「2007年問題」(定年退職者多量輩出時代)を前に、団塊の世代をはじめとする定年退職者が地域社会で安定的なライフスタイルを築けるよう、本人・企業・地域社会・行政らとの協働で諸策を講じる必要がある。

ここでは、その達成方法のひとつと思われる「講習会開催」について検討を加えるものである。

1 事業の目的

2007年から2010年にかけて満60歳を迎える人口は板橋区においては2万7千人あまりで、このうちの少なからずの人々が企業、団体等において定年退職を迎えるものと思われる。

こうした「企業戦士」の多くは自分の地元、地域社会での諸活動にはほぼ無縁な存在であったが、確実に彼らは会社を出て社会に、地域社会に、そして家庭に戻ってくる。

従って定年を迎えてから思案するのではなく、その前段階の現役時に定年後のライフスタイルをイメージできるように、定年後に直面するであろう諸事項についての「講習会」を事前に開催することで、新生活へのソフトランディング(安定着陸)を図ることを目的とする。

同時に本講習会の受講を通して、定年までの自己の再活性化を図ることも可能となる。

- ・本人にとっては、定年後の生き方がわかる。
 - ・企業にとっては、勤労意欲の向上が図れる。
 - ・家庭にとっては、豊かな人生設計が引ける。
 - ・地域にとっては、有能な活動主体を迎える。
 - ・社会にとっては、豊富な人材育成ができる。
- } ことが可能となり、活性化が図られる。

2 事業の概要

- (1) 名称 案①「ナイスライフプランセミナー」
案②「人生のセカンドステージセミナー」
※“今後のより良い人生を築くための講習会”という意味。
あまり固さを前面に出す名称は控えた方が良い。
- (2) テーマ 案①「これからの人生行路の設計図の引き方」
案②「定年後の生活を豊かにするために・・・」
案③「“会社”を卒業し“社会”に入学するみなさんへ」
案④「これで安心!すべてがわかる!!楽しい生活術入門編」
※できるだけ内容がわかるキャッチコピーとする
- (3) 対象者 板橋区内の在住者または勤務者で、昭和18年から同24年生まれの男女。
※団塊対策であるが、現実的な問題として直面しているであろう19～21年生まれも対象として広げる。
また、企業や団体等で人事、総務、研修等を担当されている方にも参加受講を呼びかけ、後の「企業主導型」への道筋もつけておく。
開催方法として、
①「定年予備軍用」(本人のみ)と、「企業サポート用」(担当者用)の2コースを別々に開催する。
②既に会社主導で開催している先進企業の事例発表の場を作る。
なども考えられる。

(4) 内容(カリキュラム)

No.	カリキュラム	趣 旨	単 元	概 要
①	オリエンテーション	導入部分	1.0h	趣旨説明、講師自己紹介、受講者相互紹介
②	自己棚卸し	振り返り	1.0h	生活自己診断チェック、自己の強みと弱み
③	生きがい論	生きがい	1.0h	生きがい診断チェック、自由時間の活用法
④	心身の健康	身体管理	2.0h	生活習慣病防止とメンタルヘルスクリニック
⑤	家庭生活観	家庭経営	1.0h	これからの夫婦、子ども、孫とのあり方研究
⑥	年金と税金	お金問題	2.0h	年金の仕組みと手取り額、必要な税金対策法
⑦	ボランティア活動	地域活動	2.0h	ボランティア・NPO、コミュニティビジネスの紹介
⑧	地域で楽しく働く	雇用労働	2.0h	地域で楽しみながら簡単に働く手段と方法
⑨	人生設計図	人生設計	2.0h	これからの20年の歩み方と楽しみ方を作る
⑩	資金計画法	お金問題	1.0h	預貯金、株式、投資信託、債券などの利殖
⑪	研修まとめ	まとめ	0.5h	これまでの講習の振り返りと確認、まとめ
⑫	絆作り	仲間作り	1.5h	受講者相互のコミュニケーションを深める
全12講座 18時間コース（1日2時間、9回コース）				

(5) 規模等

- ① 開 講 日 開催日時はなるべく早めの開催が望ましく、少なくとも今年中に一クールは開催したい。
開催曜日は、現役会社員を受講対象とすることから、
・平日なら夜間の時間帯の2時間コース(19:00～21:00)
・土曜日なら午後の4時間コース(13:00～17:00)でも可。
※平日夜間ならば2時間単元で9回(9日間)コースとなる。
隔週土曜日の午後開講で、1回4時間講習とすれば、①と②と③で1回、
④と⑤、⑥と⑦で2回・⑧と⑨1回、⑩と⑪と⑫の計5回講座となる。
- ② 定 員 原則として20名以内とする
※あまり「マス教室」では研修効果が期待できない。
締切日を設け、抽選にて受講者を決定する。
- ③ 告知方法 開催チラシ等の作成、区役所広報手段等の活用
区内大手企業、団体、事業所等に本件開催のダイレクトメールを出す
- ④ 会 場 板橋区立グリーンホールなど、近隣公設会場
- ⑤ 講 師 分野毎に同問題等に精通した講師を充てる。
厚生労働省の下部団体等で、法人格(財団、福祉、社団など)を有する信用性の高い団体から派遣を受ける。
- ⑥ そ の 他 受講者には「第2の人生入場券(仮名)」といった修了証書を発行する。
※同入場券所有者は公的な制度(サービス)を利用する際に特典が受けられることとする。